

甲南大学生に薦める101冊の本



- 1 学長 長坂悦敬 推薦・・・『イノベーション・オブ・ライフ』
- 2 理事長 吉沢英成 推薦・・・『道徳の教科書—善く生きるための七十の話』
- 3 副理事長 片山勉 推薦・・・『十字軍物語』
- 4 監事 牧美喜男 推薦・・・『ドクトルマンボウ航海記』
- 5 理事 葉袋真人 推薦・・・『怒る富士』

文学部教員

- 6 秋元孝文 推薦・・・『あの素晴らしき七年』
- 7 稲田清一 推薦・・・『輝ける闇』
- 8 稲田清一 推薦・・・『近代中国政治外交史：ヴァスコ・ダ・ガマから五四運動まで』
- 9 大森義彦 推薦・・・『漢字と日本人』
- 10 佐藤泰弘 推薦・・・『逆転世界』
- 11 高石恭子 推薦・・・『くらやみの速さはどれくらい』
- 12 田中貴子 推薦・・・『テヘランでロリータを読む』
- 13 田中貴子 推薦・・・『僕らが死体を拾うわけ：僕と僕らの博物誌』
- 14 出口晶子 推薦・・・『阪神水害記念帳』
- 15 中里英樹 推薦・・・『21世紀家族へ：家族の戦後体制の見かた・超えかた』
- 16 服部 正 推薦・・・『未知の贈りもの』

理工学部教員

- 17 日下部岳広 推薦・・・『137億年の物語：宇宙が始まってから今日までの全歴史』
- 18 日下部岳広 推薦・・・『辞書になった男：ケンボー先生と山田先生』
- 19 山本常夏 推薦・・・『クオーク 第2版』
- 20 渡邊順司 推薦・・・『新物理の散歩道』
- 21 渡邊順司 推薦・・・『京都大学人気講義サイエンスの発想法
化学と生物学が融合すればアイデアがどんどん湧いてくる』
- 22 後藤彩子 推薦・・・『ご冗談でしょう、ファインマンさん』

経済学部教員

- 23 稲田義久 推薦・・・『ブッダ最後の旅』
- 24 岡田元浩 推薦・・・『私の個人主義』
- 25 杉村芳美 推薦・・・『戦後世界経済史：自由と平等の視点から』
- 26 足立泰美 推薦・・・『世の中の見え方がガラッと変わる経済学入門』
- 27 足立泰美 推薦・・・『「学力」の経済学』
- 28 平井健介 推薦・・・『学問のすすめ』
- 29 平井健介 推薦・・・『青が散る』
- 30 平井健介 推薦・・・『映画館と観客の文化史』

法学部教員

- 31 武井 寛 推薦・・・『エコノミック・ヒットマン』
- 32 武井 寛 推薦・・・『英語で大学が亡びるとき：「英語力＝グローバル人材」というイデオロギー』

経営学部教員

- 33 北居 明 推薦・・・『柴田秋雄のホテル再生物語』
- 34 西村順二 推薦・・・『泳ぐのに、安全でも適切でもありません』
- 35 西村順二 推薦・・・『それから』
- 36 渡邊和俊 推薦・・・『イノベーションのジレンマ — 技術革新が巨大企業を滅ぼすとき』

知能情報学部教員

- [37](#) 森元勘治 推薦・・・『人生論』
- [38](#) 若谷彰良 推薦・・・『スティーブ・ジョブズ』
- [39](#) 若谷彰良 推薦・・・『現代思想 2015年12月号 特集=人工知能 -ポスト・シンギュラリティ』
- [40](#) 永田 亮 推薦・・・『蒼穹の昴』

マネジメント創造学部教員

- [41](#) 真崎克彦 推薦・・・『半市場経済 成長だけでない「共創社会」の時代』
- [42](#) BOYLES Corinne 推薦・・・『ジェイン・エア』
- [43](#) 中村聡一 推薦・・・『国家』上下

フロンティアサイエンス学部教員

- [44](#) 赤松謙祐 推薦・・・『嫌われる勇氣：自己啓発の源流「アドラー」の教え』
- [45](#) 赤松謙祐 推薦・・・『幸せになる勇氣』
- [46](#) 川上純司 推薦・・・『論理トレーニング101題』
- [47](#) 川上純司 推薦・・・『学者は平気でウソをつく』
- [48](#) 川上純司 推薦・・・『神様のパズル』
- [49](#) 中野修一 推薦・・・『科学するブッダ 犀の角たち』
- [50](#) 中野修一 推薦・・・『疫病と世界史』上下
- [51](#) 中野修一 推薦・・・『入社1年目の教科書』
- [52](#) 西方敬人 推薦・・・『死はなぜ進化したか—一人の死と生命科学』
- [53](#) 西方敬人 推薦・・・『壽屋コピーライター開高健』
西方敬人 推薦・・・『ご冗談でしょう、ファインマンさん』
- [54](#) 西方敬人 推薦・・・『算数好きな子に育つたのしいお話365:
さがしてみよう、あそんでみよう、つくってみよう 体験型読み聞かせブック』
藤井敏司 推薦・・・『137億年の物語：宇宙が始まってから今日までの全歴史』
- [55](#) 藤井敏司 推薦・・・『元素111の新知識：引いて重宝、読んでおもしろい』
- [56](#) 藤井敏司 推薦・・・『もうダメされないための「科学」講義』
- [57](#) 藤井敏司 推薦・・・『外科医須磨久善』
- [58](#) 藤井敏司 推薦・・・『孤高の人』
- [59](#) 藤井敏司 推薦・・・『世界の「宗教と戦争」講座：生き方の原理が異なると、なぜ争いを生むのか』
- [60](#) 松井 淳 推薦・・・『世界でいちばん貧しくて美しいオーケストラ』
- [61](#) 三好大輔 推薦・・・『ローマ人の物語』
- [62](#) 三好大輔 推薦・・・『NASAより宇宙に近い町工場NASAより宇宙に近い町工場：僕らのロケットが飛んだ』
- [63](#) 三好大輔 推薦・・・『ゲノムと聖書：科学者、「神」について考える』
- [64](#) 三好大輔 推薦・・・『生命とは？物質か！サイエンスを知れば百考して危うからず』
- [65](#) 三好大輔 推薦・・・『生涯を賭けるテーマをいかに選ぶか：東工大講義』
- [66](#) 村嶋貴之 推薦・・・『科学と科学者のはなし 寺田寅彦エッセイ集』
- [67](#) 村嶋貴之 推薦・・・『図解 月の神秘—伝説から科学まで』
- [68](#) 臼井健二 推薦・・・『アット・ザ・ヘルム：自分のラボをもつ日のために』
- [69](#) 臼井健二 推薦・・・『デミアン』
- [70](#) 甲元一也 推薦・・・『頭がいい人の 仕事が速くなる技術』
- [71](#) 甲元一也 推薦・・・『日本人の英語』
- [72](#) 長濱宏治 推薦・・・『プリンスのいない日本』
- [73](#) 長濱宏治 推薦・・・『武士道』
- [74](#) 川内敬子 推薦・・・『モリー先生との火曜日』
- [75](#) 川内敬子 推薦・・・『ちいさなあなたへ（主婦の友はじめてブックシリーズ）』
- [76](#) 鶴岡孝章 推薦・・・『脳のなかの幽霊』
- [77](#) 鶴岡孝章 推薦・・・『集中力』
- [78](#) 高嶋洋平 推薦・・・『あの演説はなぜ人を動かしたのか』
高嶋洋平 推薦・・・『イノベーションのジレンマ - 技術革新が巨大企業を滅ぼすとき』

国際言語文化センター教員

- [79](#) 伊庭 緑 推薦・・・『人間の絆』
- [80](#) 津田信男 推薦・・・『元気は、ためられる』
- [81](#) 藤原三枝子 推薦・・・『人を伸ばす力～内発と自律のすすめ』

スポーツ・健康科学教育研究センター教員

- [82](#) 桂 豊 推薦・・・『天才』
- [83](#) 山崎俊輔 推薦・・・『中国古典名言事典』

共通教育センター教員

- [84](#) 伊豫田隆俊 推薦・・・『経済学のセンスを磨く』
伊豫田隆俊 推薦・・・『戦後世界経済史：自由と平等の視点から』
- [85](#) 伊豫田隆俊 推薦・・・『戦後経済史：私たちはどこで間違えたのか』

先端生命工学研究所教員

- [86](#) 杉本直己 推薦・・・『生命とは何か―物理的にみた生細胞』
- [87](#) 杉本直己 推薦・・・『二重らせん』

法科大学院教員

- [88](#) 渡辺颯修 推薦・・・『ハーバードでいちばん人気の国・日本』
- [89](#) 小舟 賢 推薦・・・『ルポ保育崩壊』

人間科学研究所

- [90](#) 川田都樹子 推薦・・・『甲南大学人間科学研究所叢書』

職員

- [91](#) 狭間宏明 推薦・・・『坂の上の雲』
- [92](#) 小花直樹 推薦・・・『小倉昌男 経営学』
- [93](#) 河口 浩 推薦・・・『名言の智恵 人生の智恵―古今東西の珠玉のことば』
- [94](#) 谷向 豊 推薦・・・『海と毒薬』
- [95](#) 谷向 豊 推薦・・・『悲しみの歌』
- [96](#) 山田 聡 推薦・・・『スラムダンク勝利学』
- [97](#) 濱頭辰治 推薦・・・『クリエイティブ・コーチング：選手の潜在能力を引き出す』
- [98](#) 高野重成 推薦・・・『[新版]男の服装術 スーツの着こなしから靴の手入れまで』
- [99](#) 南部晶子 推薦・・・『白い杖のひとり旅：ニュージーランド手探り紀行』
- [100](#) 西又映希 推薦・・・『カラフル』

大学生協店長

- [101](#) 平田誠二 推薦・・・『総合商社で学んだワンランク上になる課長のノート 自分を高める「気づきメモ」』

1

『イノベーション ・オブ・ライフ』

ハーバード・ビジネス
スクールを巣立つ君たちへ』

* 著者名

クレイトン・M・クリステンセン,
ジェームズ・アルワース,
カレン・ディロン(著)
櫻井祐子(訳)

* 出版社

翔泳社(2012年)

学長 長坂悦敬 推薦

「何が、何故、何を引き起こすのか?」、「イノベーションのジレンマ」等の経営理論を唱えたハーバード大学クリステンセン教授が、最終講義で、「生きる」ことの本質を語った内容がまとめられている。人生のジレンマを乗り越えるための1冊。経営理論が職業の選択、子育て、家庭内マネジメントなど人生のさまざまな分野に応用できることを解説し、富や名声ではなく、身近な人の幸せや自らの信念こそ、人生を賭ける価値があることを説く。まさに甲南学園創立者平生鈞三郎がいう「正志く、強く、朗らかに」と通じる。より豊かな生き方を目指したい人に読んでほしい。

2

『道徳の教科書』

善く生きるための
七十の話』

* 著者名

渡邊毅(著)

* 出版社

PHP文庫(2007年)

理事長 吉沢英成 推薦

歴史上よく聞く偉人の名前が沢山でてきますがどこが偉いのかを納得させてくれます。徳とはなにかを考えさせられます。といってもかたい(堅い・固い・硬い・難しい)読みものではないところがすばらしい。

3

『十字軍物語』

* 著者名

塩野七生(著)

* 出版社

新潮社(2011年)

副理事長 片山勉 推薦

900年を経てバチカンが誤りであったと認めた十字軍とは? キリスト教世界とイスラム教政界の対決という現代にも通じる問題を読み取ることが出来る「十字軍物語」は、日本人には馴染み難い二つの一神教世界の確執の歴史を分り易く解きほぐしている。ヨーロッパで頻発するテロのニュースに心痛む昨今であり、「対岸の火事」では無く、私達も当事者達の長い対決の歴史を知るべき時ではないだろうか。

4

『ドクトルマンボウ
航海記』

- * 著者名
北杜夫(著)
- * 出版社
新潮社(1987年)

監事 牧美喜男 推薦

水産庁漁業調査船の船医として1958年6月にわたりアジアからアフリカ、ヨーロッパを航海した。その旅行記がドタバタ喜劇のような可笑しさで描かれている。海外旅行が夢のような時代であったが、物怖じをせず、人々と交流する姿に憧れ、多くの若者は海外雄飛を夢見た。彼の大作『楡家の人びと』にまでたどり着いてほしい。

5

『怒る富士』

- * 著者名
新田次郎(著)
- * 出版社
文芸春秋
(2007年)

理事 薬袋真人 推薦

近年、われわれの生活は自然災害と切っても切れない関係にあるものと実感する機会が多くなっています。これまで休火山と見做されていた富士山についても、現在ではいつ噴火してもおかしくないと言われていました。本書では、自然災害に立ち向かった先人の苦労と共に、人を想う純粋な気持ちを呑みこんでいく大きな力の存在について書かれています。人間活動に内在する“清濁”を理解する一助にもなる良書だと思います。

6

『あの素晴らしき
七年』

- * 著者名
エトガル ケレット(著)
秋元 孝文(翻訳)
- * 出版社
新潮社(2016年)

文学部教員 秋元孝文 推薦

イスラエルの人気短編小説作家によるエッセイ集。短い一編一編に笑いと不可思議が詰まっています、それについて読んだ後に考えさせられます。現在の「世界」について知るためにも、人間が成熟していくということについて考えるためにも、そしてなにより読むことの楽しさを味わうために、手に取ってもらいたい一冊です。

7

『輝ける闇』

- * 著者名
開高健(著)
- * 出版社
新潮社(1968年)

文学部教員 稲田清一 推薦

ベトナム戦争に取材した戦争小説として知られるが、たとえば大岡昇平『野火』とは違い「アジア的なもの」が単なる背景としてでなく描き込まれている。貧困と豊穡さ、独裁と抵抗、迷信と知性、諦観と勤勉さなど、一言でいえば混沌だがそれらが皮膚感覚を通して伝わってくる。戦後の混沌を描いた同じ著者の『日本三文オペラ』はその日本版として読める。

8

『近代中国
政治外交史
ヴァスコ・ダ・ガマから
五四運動まで』

- * 著者名
坂野正高(著)
- * 出版社
東京大学出版会
(1973年)

文学部教員 稲田清一 推薦

講義録をもとに著された本書は、的確、簡潔な叙述と親切な文献解題で入門書の名著と呼ぶにふさわしい。取り扱われる時代は五四運動のころまでだが、清朝の政治制度が丁寧に解説されていて専門家にも役に立つ。近年続々と出版される中国関連本には信頼の置けないものが多いなか、本書は現代中国を論じるさいにも必読の文献である。

9

『漢字と日本人』

- * 著者名
高島俊男(著)
- * 出版社
文芸春秋(2001年)

文学部教員 大森義彦 推薦

第二外国語で選択した人なら身にしみていることと思いますが、中国語は日本語とはまったく性質の異なる言語です。その中国から千数百年前に漢字を取り入れ始めた日本語がいかに特殊な言語になっていったか、具体例豊富に解説しています。目からウロコも何度かあるはず。「異文化と自文化」の関係を考えるきっかけにしてください。

10

『逆転世界』

- * 著者名
プリースト(著)
- * 出版社
東京創元社
(1996年)

文学部教員 佐藤泰弘 推薦

ハイライン『ルナ・ゲートの彼方』(創元SF文庫 1989年)とならび、これはないだろうという結末が、カタルシスを感じさせる。小説に感情移入していることを、痛切に気付かせてくれる。その裏切りが好ましい。読み直すと痛々しいと思うので、二度と読む気にならない。一期一会の名作。

11

『くらやみの
速さは
どれくらい』

- * 著者名
エリザベス・ムーン(著)
小尾芙佐(訳)
- * 出版社
早川書房(2008年)

文学部教員 高石恭子 推薦

私らしく生きるとは、幸せとは何か。高機能自閉症の若き主人公ルウたちが、バイオインフォマティクス(生命情報学)の専門家として働いていた会社で、自閉症を健常者にする治験に参加するよう上司から圧力がかかる。自らのために、愛する人のために、組織のために、時代社会のために、どう決断するのか。そこにスリリングなドラマが展開する。本書は、自閉症の息子を持つ著者が自閉症の視点から世界を描いた長編小説であり、私たちに、世界を見る新たな感性を拓かせてくれる。ネビュラ賞受賞。「21世紀版『アルジャーノンに花束を』」とも評されている。自閉症を含む「発達障害」という概念が教育現場や社会で注目されている今、改めて、そのような概念を生んだ現代社会の孕む問題について、クリティカルに考え直すきっかけを与えてくる本書を読んでみることをお勧めしたい。

12

『テヘランで
ロリータを読む』

* 著者名

アーザル・ナフィーシー(著)
市川恵里(訳)

* 出版社

白水社(2006年)

文学部教員 田中貴子 推薦

本書は、1979年のイスラム革命後、思想的弾圧が厳しさを増すなかで数名の女性たちが「禁書」とされていた英文学の読書会を20年近く続けた日々の回想録である。スカーフの着用を拒否して大学を追われた女性教授の自宅に集まった数名の女子学生が読んだ本は、ナボコフの『ロリータ』、フィッツジェラルドの『グレート・ギャツビー』などの有名古典。度重なる空襲警報に脅かされ、女性への理不尽な抑圧に怒りながら、「学ぶことの自由」を追求した女性たちの姿をぜひ知ってもらいたい。近い未来、日本にこんな日が来るかも知れないと思うと、学ぶことは希望を失わないための大きな支えとなるだろう。何のために大学で学ぶのかわからなくなっている人におすすめする。

13

『僕らが死体を
拾うわけ
僕と僕らの博物誌』

* 著者名

盛口満(著)

* 出版社

筑摩書房(2011年)

文学部教員 田中貴子 推薦

死体、いや、したいことが仕事になったらいいな、と思ってもなかなか叶わぬこのご時世。だけど、盛口センセ(愛称ゲッチョ)は高校で生物を教えながら死んだ動物を拾ってきては解剖して骨格標本を作っちゃう。しかも高校生まで巻き込んで、教え子には剥製製作の学校へ留学してしまった人も！骨になると見えてくる生命の不思議が、軽妙な文章と手書きイラストで綴られる。「好き」を貫くと案外うまく行くかもしれない、って見本かもね。

14

『阪神水害
記念帳』

* 著者名

甲南高等学校々友会(編)

* 出版社

甲南高等学校(1938年)

文学部教員 出口晶子 推薦

甲南小学校校庭にある甲南学園創設者・平生釦三郎の揮毫による「常二備へヨ」の石碑、甲南中高・大学に阪神淡路大震災後、新たに設置された「常二備へヨ」の石碑とあわせ、甲南大学が位置する六甲山南麓の地質や阪神大水害(昭和13年)の事実を後世に正しく伝える不朽の名著。学生の撮った写真や実体験の作文記録が心をうつ。さらに関心をもったなら水害の記憶を小説に定着させた谷崎潤一郎の代表作『細雪』も読んでみよう。

15

『21世紀家族へ』

- * 著者名
落合恵美子(著)
- * 出版社
有斐閣(2004年)

文学部教員 中里英樹 推薦

若い学生さんたちに向けて授業をしていて、家族に関して意外に強い「思い込み」にとらわれている人が多いことに気づきます。こうした思い込みを覆すような内容満載の本書の初版が1994年に出版されたとき、家族問題に関心を持つ人たちに広く読まれ、厚生白書の記述にも影響を与えましたが、社会全体には浸透しきれていないのかもしれませんが。少し前の本ですが、学生さんたちにぜひ読んでもらいたい一冊です。

16

『未知の贈りもの』

- * 著者名
ライアル ワトソン(著)
村田恵子(訳)
- * 出版社
ちくま文庫(1992年)

文学部教員 服部正 推薦

科学者によるインドネシアの小さな島での滞在記で、サイエンス・ノンフィクションという位置づけの本です。しかし私は、ある知識人の異文化との出会いの物語として理解しました。20歳の頃に読み、自分とは異なる考え方や生活様式を持つ人たちとどう向き合うのか、本当の知性や正義とは何かについて、深く考えさせられました。神秘的な現象の美しい描写と真摯な内省に心を打たれます。翻訳も素晴らしい。

17

『137億年の物語
宇宙が始まってから
今日までの全歴史』

- * 著者名
クリストファー・ロイド(著)
野中香方子(訳)
- * 出版社
文藝春秋(2012年)

理工学部教員 日下部岳広 推薦

物理学、生物学、天文学、考古学、宗教、民族、文明、農業、経済……。学校の勉強ではつながりを感じなかったいろいろな分野が、著者の手によってつなげて語られる楽しい本です。世界や人間、そして自分自身をいままでと違った目でみられるようになるかもしれません。

フロンティアサイエンス学部
教員 藤井敏司 推薦

P25 参照

18

『辞書になった男
ケンボー先生と
山田先生』

- * 著者名
佐々木健一(著)
- * 出版社
文藝春秋(2014年)

理工学部教員 日下部岳広 推薦

力を合わせて画期的な国語辞典を作った大学同期の二人の男が、訣別してそれぞれ『三省堂国語辞典』と『新明解国語辞典』という対照的な個性の辞書(どちらも大ベストセラー)を作ることになったのはなぜか。辞書を見る目が変わる一冊です。

19

『クォーク 第2版』

- * 著者名
南部 陽一郎(著)
- * 出版社
講談社(1998年)

理工学部教員 山本常夏 推薦

現代物理により解明された素粒子の基礎法則を解説。100億年以上に及ぶ宇宙の歴史の中で、その中のほんの微かな存在である人類が一瞬というべき時間の間にすべての物質に寿命があることを見出し宇宙の法則を理解する不思議について書いている。理系・文系を問わず現代物理の基礎が理解できる名著。

20

『新物理の
散歩道』

- * 著者名
ロゲルギスト(著)
- * 出版社
筑摩書房
(2009年)

理工学部教員 渡邊順司 推薦

身近なことを解き明かした日本人物理学者7名によるエッセイ集。例えば大勢の人が一列に並ぶと、その行列はところどころ折れ曲がってしまうが、高い樹木がしなる「座屈(ざくつ)」とよばれる現象と対比させて考察し、列が崩れない並び方を提案している。論理的な思考法の魅力は、全5集にちりばめられている。

21

『京都大学人気講義
サイエンスの発想法』

化学と生物学が融合すれば
アイデアがどんどん
湧いてくる』

- * 著者名
上杉志成(著)
- * 出版社
祥伝社(2014年)

理工学部教員 渡邊順司 推薦

化学と生物学の融合領域を話題としながら、学問が進歩するきっかけになった発想について書かれた講義録。各章は、興味が湧くような話題提供の導入部の後に、専門的な内容が続く。京都大学の理系教養科目で扱った講義の中で披露されたアイデアを発想する手法について学ぶことができる。

22

『ご冗談でしょう、
ファインマンさん』

- * 著者名
R. P. ファインマン(著)
大貫昌子(訳)
- * 出版社
岩波書店(2000年)

理工学部教員 後藤彩子 推薦

ノーベル物理学賞を受賞した物理学者の自伝です。堅苦しい話はなく、軽快な文章でユーモアに書かれているため、物理学の知識が一切なくても、理系でなくても読みやすい本です。天才ゆえに凡人には理解がたい箇所はあるものの、いろいろな場面で「なぜだろう？」と好奇心をもって物事をみるのが人生を楽しむ秘訣であることがよく分かります。

フロンティアサイエンス学部教員
西方敬人 推薦

[P24 参照](#)

23

『ブッダ
最後の旅』

- * 著者名
中村元(訳)
- * 出版社
岩波書店(2010年)

経済学部教員 稲田義久 推薦

若い皆さん、ブッダが人生最後の旅をどのように過ごしたかが、含蓄深く描かれています。静かな時間を選んでじっくり読んでください。

24

『私の個人主義』

- * 著者名
夏目漱石(著)
- * 出版社
講談社(1978年)

経済学部教員 岡田元浩 推薦

生きていく上での迷い、真の個性、個人と国家、といった、誰もが直面する問題に立ち向かうためのヒントを、「国民的文豪」が平易な言葉を用いながら奥深く洞察しています。現在のような不透明・閉塞感に満ちた時代にぜひ読んでもらいたい1冊です。

25

『戦後世界経済史
自由と平等の
視点から』

- * 著者名
猪木武徳(著)
- * 出版社
中央公論新社
(2009年)

経済学部教員 杉村芳美 推薦

私たちの今はどのようにしてこうあるのか。グローバルな経済世界はどのようにして形成されてきたのか。この書物をとおして戦後世界経済の大きな変化とその意味をとらえることができる。文系・理系を問わず、手にとってほしい。自由と平等は両立するかの問題についても深い示唆を与えてくれる。

共通教育センター教員
伊豫田隆俊 推薦

P36 参照

26

『世の中の見え方が
ガラッと変わる
経済学入門』

- * 著者名
川本 明 (著)
矢尾板 俊平 (著)
小林 慶一郎 (著)
- * 出版社
PHP研究所(2016年)

経済学部教員 足立泰美 推薦

本書は、経済学という学問を日常生活に活かしていくためのヒントになる本です。皆さんの周りにある入門書を手にとってみてください。読みやすい、解りやすい、覚えやすいという視点から、図解がたくさん記された書籍が多いです。しかしながら、理解するということはどういうことでしょうか？現実の問題を自分で考え、読み解き、判断する、それが解ったということではないでしょうか。そんな「世の中の見え方がガラッと変わる」快感を、本書で堪能してください。

27

『「学力」の
経済学』

- * 著者名
中室牧子 (著)
- * 出版社
ディスカヴァー・
トゥエンティワン
(2015年)

経済学部教員 足立泰美 推薦

「子どもは褒めて育てるべきだ」「ゲームは子どもに悪い影響を与えている」に象徴されるように、子育てに成功した一個人の経験が、いかにも「成功する子育て」として浸透していませんか？しかしながら、それら見解はデータに基づいた教育の効果とは言いがたいです。本書では今まで「思い込み」で語られてきた教育効果を科学的根拠から解説した画期的な書籍となります。

28

『学問のすすめ』

- * 著者名
福澤諭吉 (著)
齋藤孝 (訳)
- * 出版社
筑摩書房(2009年)

経済学部教員 平井健介 推薦

「天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らず」。この冒頭文はあまりに有名ですが、本書の主旨をまったく表していません。個人の学びと社会はどう関係するのか。個人はどうすれば「独立」できるのか。主体性のある個人になりたい人や、グループワークに違和感がある人にお勧め。齋藤孝(2010)『孤独のチカラ』(新潮社)も。

29

『青が散る』

- * 著者名
宮本輝(著)
- * 出版社
文藝春秋(1982年)

経済学部教員 平井健介 推薦

残念ながら、みなさんの青春は、大学卒業と同時にほぼ終わります。残り少ない青春をどうするか。青春かくあるべし、を地で行く本書を、リア充な人には学生生活の「バイブル」として、リア充でない人にはどんな結果になるか分からない「劇薬」として、お薦めします。氷室冴子(1995)『海が聞こえるII』(徳間書店)も。

30

『映画館と
観客の文化史』

- * 著者名
加藤幹郎(著)
- * 出版社
中央公論新社
(2006年)

経済学部教員 平井健介 推薦

「映画館って何するところなの？」子供にこう聞かれたら、私たちは「静かに映画を見るところだよ」と答えるでしょう。しかし、それは私たちが2016年の日本に生きているからです。この本は、映画館を題材に、私たちと「モノ」との関係が、絶えず変化していることを教えてくれます。これぞ歴史を知る醍醐味、という一冊です。

31

『エコノミック・
ヒットマン』

- * 著者名
ジョンパーキンス(著)
古草秀子(翻訳)
- * 出版社
東洋経済新報社
(2007年)

法学部教員 武井寛 推薦

ヒットマンを大辞林で調べると「殺し屋」との説明が出てくる。「エコノミック・ヒットマン」とは、したがって直訳すると「経済の殺し屋」となる。この本では、経済のグローバル化の一面を示す事実が我々の目の前に繰り広げられ、慄然とする。次にはかならずグレアム・グリーンの『トリホス将軍の死』が読みたくなるはずである。

32

『英語で大学が
亡びるとき
「英語力=グローバル人材」
というイデオロギー』

- * 著者名
寺島隆吉(著)
- * 出版社
明石書店(2015年)

法学部教員 武井寛 推薦

ノーベル物理学賞を受賞した益川敏英さんは、英語が苦手でノーベル賞授賞式のスピーチを日本語で行ったことで有名である。その益川さんも英語ができるにこしたことはないとおっしゃる。そのことに全く異論はない。とはいえ、この手の本を読んで、立ち止まって考えることを、おそらく要請しているのが現在ではないだろうか。ちなみにこの本には甲南の先生も登場される。

33

『柴田秋雄の
ホテル再生物語』

- * 著者名
柴田秋雄 (著)
- * 出版社
中日新聞社(2010年)

経営学部教員 北居明 推薦

倒産寸前のホテルの支配人となった旧国鉄労働組合委員長だった筆者が、7年連続黒字にまで再生させる物語です。強烈なリーダーシップではなく、奇想天外な手段をとるわけでもない、「当たり前」の大事さを伝えてくれる一冊です。

34

『泳ぐのに、
安全でも適切でも
ありません』

- * 著者名
江国香織 (著)
- * 出版社
ホーム社(2002年)

経営学部教員 西村順二 推薦

短編小説で、気軽に読めます。人生における選択肢や価値観の多様性について、恋愛を通して考えさせられる小説です。

35

『それから』

- * 著者名
夏目漱石 (著)
- * 出版社
岩波書店(1956年)

経営学部教員 西村順二 推薦

『三四郎』『門』と並んで、夏目漱石の前期三部作と呼ばれています。皆さんが、卒業後実社会において、働くことの意味、仕事とは何なのか、そしてどんな人生を歩むべきなのかを、きっと考える時が来るでしょう。今、学生のときに一度読んでみてください。きっとそのヒントが見つかるでしょう。

36

『イノベーションの
ジレンマ
技術革新が巨大企業を
滅ぼすとき』

* 著者名

クレイトン・クリステンセン(著)
伊豆原弓(訳)

* 出版社

翔泳社(2001年)

経営学部教員 渡邊和俊 推薦

優良企業は自社の主流顧客のニーズを綿密に分析し、対応することを優先する。そのため、主流顧客のニーズに対応する製品性能を向上させることになる。しかし、市場には、こうした高度化した製品性能を必要とせず、もっと簡易な技術にもとづく製品を求める顧客も存在する。一定の製品性能を向上させることが優れた製品を作ることだと考えると、市場全体の動きを見誤ることになる。

フロンティアサイエンス学部教員
高嶋洋平 推薦

P33 参照

37

『人生論』

- * 著者名
武者小路実篤(著)
- * 出版社
岩波書店(1938年)

知能情報学部教員 森元勘治 推薦

「自分というものが意識に浮かんだ時は既に自分が生まれていたときである。」という一節で始まる本書は、真摯に自分を見つめ、誠実に生きていこうとする若者にとって、仕事・恋愛・結婚・生と死等々、心の羅針盤となる珠玉のエッセイである。

38

『スティーブ・ジョブズ』

- * 著者名
ウォルター・アイザックソン(著)
井口 耕二(訳)
- * 出版社
講談社(2012年)

知能情報学部教員 若谷彰良 推薦

スティーブジョブズの名前は知ってても、具体的に何をした人かを知らない人は多いかもしれません。その手法や考え方には賛否両論あります。この本を通して、情報技術の世界における現代の巨人の実像に触れ、自分ならどうする?と考えるのもいいのではないのでしょうか。

39

『現代思想
2015年12月号 特集
人工知能 ポスト・
シンギュラリティ』

- * 著者名
新井紀子(著) 他
- * 出版社
青土社(2015年)

知能情報学部教員 若谷彰良 推薦

人工知能の歴史は古いですが、計算能力の爆発的向上とネットワークから得られる膨大な情報により、現在、その様相は大きく変わりつつあり、ものごとの判断基準や、仕事の選択などに影響を与え始めています。人工知能に潜む様々な問題点を考えてみましょう。

40

『蒼穹の昴』

- * 著者名
浅田次郎(著)
- * 出版社
講談社(1996年)

知能情報学部教員 永田亮 推薦

中国の清時代を舞台にした歴史小説です。
壮大な同時代の歴史の流れが素晴らしい文章で描かれています。
この本を読むと中国のことを身近に感じられると思います。
続編の、「珍妃の井戸」、「中原の虹」、「マンチュリアン・リポート」もお勧めです。

41

『半市場経済
成長だけでない
「共創社会」の
時代』

- * 著者名
内山節(著)
- * 出版社
角川新書(2015年)

マネジメント創造学部
教員 真崎克彦 推薦

競争原理に基づく市場経済(=競争社会)の中で、より望ましい働き方やより望ましい社会づくり(=共創社会)にも資するような「半市場経済」の営みが広がってきました。もちろんビジネスである以上、持続的に経営可能でなくてはなりません。同時に、より良い社会やより良い働き方にも資するようなビジネスをローカルな現場で創出する動きです。日本を含む世界各地での一つのグローバルトレンドになりつつあります。そうした最新動向を、第一線で活躍する大学教員、ソーシャルビジネス経営者、営農者、NPO関係者が伝える良書です。環境問題や紛争や貧困や経済危機など、地球社会の「持続可能性」がますます問われる今日、身近にできることを考えるヒントとして、ぜひとも多くの学生さんに読んで欲しいと考えます。

42

『ジェイン・エア』

- * 著者名
シャーロット・ブロンテ(著)
小尾芙佐(翻訳)
- * 出版社
岩波文庫(2006年)

マネジメント創造学部
教員 BOYLES Corinne 推薦

1847年に世の中に出てから一度も絶版になったことがなく、今も世界中の読者に感動を与え続ける“ロマンス”。封建主義的な考えがまだ残る19世紀のイギリス社会に生きる女性の個人尊厳への熱烈な訴えに圧倒されます。共感しやすく、読んでいて勇気付けられることもあります。人生の友のひとつになりうる本です。

43

『国家』

- * 著者名
プラトン(著)
藤沢令夫(訳)
- * 出版社
岩波文庫(2008年)

マネジメント創造学部
教員 中村聡一 推薦

中世キリスト教の教義から近世以降の主権国家成立に至る有史以来の西洋思想に影響を与えた古代ギリシャの哲学者の書。プラトンが師ソクラテスの言葉を借りて国家の原理を問う。

44

『嫌われる勇氣』

自己啓発の源流

『アドラー』の教え』

* 著者名

岸見一郎

古賀史健(著)

* 出版社

ダイヤモンド社

(2013年)

フロンティアサイエンス学部

教員 赤松 謙祐 推薦

フロイト、ユングにならぶ心理学の巨人アルフレッド・アドラーの心理学を、悩み多き主人公と哲人との対話形式で紹介する書籍。「すべての悩みは対人関係の悩みである」とした上で、人は変わらないのではなく、ただ「変わらないと心に決めている」だけである、と結論づけている。このシンプルな考え方は極めて衝撃的で、にわかに受け入れ難いかもしれないが、誰もが心に持つ「劣等感」を払拭しうる至極の一冊。

45

『幸せになる
勇氣』

自己啓発の源流

『アドラー』の教えII』

* 著者名

岸見一郎

古賀史健(著)

* 出版社

ダイヤモンド社

(2016年)

フロンティアサイエンス学部

教員 赤松 謙祐 推薦

前作「嫌われる勇氣」の内容をより実践的に説いた続編。前作で教えを受けて教師となった主人公が、それを実践できずに再び哲人のもとを訪れ、主に「教育とはなにか」について論戦を挑む。教育においては、「褒めても叱ってもいけない」のであり、「その人がその人であることを認め、ただ寄り添う」ことに注力すべきである、と哲人は説く。人が幸せになるためにはどうすれば良いか、深く考え、実践したい人のための必読書。

46

『論理トレーニング
101題』

* 著者名

野矢茂樹(著)

* 出版社

産業図書(2001年)

フロンティアサイエンス学部

教員 川上純司 推薦

理解はしているのに、ロジカルに人に伝えることができないがために、分かっていないと判断されてしまう。これはとても勿体ないことだ。しかし、論理思考が苦手な人は論理的に書いてある論理学の専門書が理解できないという、当たり前の問題に直面する。そんな人にこそ、本書はオススメである。テストの答案や就職活動に始まり、社会でも一生役に立つスキル(トレーニングで獲得可能な能力)として、ロジックを身につけよう。

47

『学者は平気で
ウソをつく』

- * 著者名
和田秀樹 (著)
- * 出版社
新潮新書 (2016年)

フロンティアサイエンス学部
教員 川上純司 推薦

本書では、悪意のある捏造などを取り扱っているわけではない。理系の大学院生であれば、研究は仮説を立てて検証することの繰り返しであることを身をもって体験する。特に文系の諸君に、長い年月をかけて進展していく科学分野では、過去の「常識」が覆されることは良くある話だということを知って欲しい。「専門家」が「最先端研究」の成果をもとに話すことを鵜呑みにしてはいけない。

48

『神様のパズル』

- * 著者名
機本伸司 (著)
- * 出版社
角川春樹事務所
(2006年)

フロンティアサイエンス学部
教員 川上純司 推薦

甲南大学理学部応用物理学科の卒業生である著者が書いた、2002年の小松左京賞を受賞した作品である。舞台はK大学理学部物理学科。映画やマンガにもなっているが、軽いSF小説なので、先輩が書いた文章そのままの小説を気楽に読んでみることをオススメする。

49

『科学するブッダ
犀の角たち』

- * 著者名
佐々木閑 (著)
- * 出版社
角川学芸出版
(2013年)

フロンティアサイエンス学部
教員 中野修一 推薦

物理学(量子力学)、生物進化、数学の3つの分野において、科学の進歩が神の視点を否定してきたことが説明されている。このことは、超越者(神)の存在を認めず、世界を法則性によって説明する仏教(上座部仏教)の考えと共通しており、科学と仏教は同次元の世界観に立つ人間活動であると論じられている。あとがきに書かれている若者たち(未来の犀の角たち)に宛てた言葉も心に残る。

50

『疫病と世界史』

* 著者名
ウィリアム・H.マクニール (著)
佐々木 昭夫 (翻訳)

* 出版社
中央公論新社
(2007年)

フロンティアサイエンス学部
教員 中野修一 推薦

著者は「世界史」(中公文庫)の著者として有名な歴史家であり、本著では疾病の流行がいかにか人類の歴史に影響してきたかが論じられている。歴史の点と点を結びつけてくれる良書であり、過酷な時代を生き抜いてきた人類の今後についても考えさせられる。

51

『入社1年目の教科書』

* 著者名
岩瀬大輔 (著)

* 出版社
ダイヤモンド社
(2011年)

フロンティアサイエンス学部
教員 中野修一 推薦

会社で仕事をはじめるとあって、身につけておくべきこと(対人関係、行動や考え方の指針など)が書かれている。社会人になる直前ではなく、ゼミや研究室などの大学組織に入る前に読んでおくべき一冊。

52

『死はなぜ進化したか
人の死と生命科学』

* 著者名
ウィリアム・R. クラーク (著)
岡田益吉 (翻訳)

* 出版社
三田出版会(1997年)

フロンティアサイエンス学部
教員 西方敬人 推薦

20年も前の本だったのか、、、。と思いながら推薦させていただきます。原題は“Sex & The Origins of Death”、著者も訳者も発生生物学者で、生物を生み出すメカニズムを解析する専門家が、子孫を残し、個体としての終末を迎えるという「戦略」を作り上げた生命の神秘をひもときます。「死」という不変のテーマに生物学の光を投げかけた本で、20年経ってもその面白さは変わりません。

53

『壽屋コピーライター
開高健』

- * 著者名
坪松博之(著)
- * 出版社
たる出版(2014年)

フロンティアサイエンス学部
教員 西方敬人 推薦

サントリーのコピーライターとして有名な開高健の足跡を、彼のコピーやTVCM、手紙の一節なども豊富に紹介しながら克明に綴った本です。「ふくよかな体型(小太り)で眼光鋭く(人相が悪く)、酒好き(呑べえ)で豪放磊落(わがまま勝手)な釣り師」といった印象であった私の開高健のイメージと全く異なる、「小顔にポストメガネをかけた神経質そうな若者」の表紙写真に驚かされました。本で紹介される「やんちゃな開高健」のエピソードの数々から、自分の思うように生きるすがすがしさが、今の学生達にも伝われば良いと思う本です。

22

『ご冗談でしょう、
ファインマンさん』

- * 著者名
R. P. ファインマン(著)
大貫昌子(訳)
- * 出版社
岩波書店(2000年)

フロンティアサイエンス学部
教員 西方敬人 推薦

ノーベル物理学賞を受賞し、天才と評され、有名な物理学の教科書の著者としても知られるファインマン。その人となり、ユーモアたっぷりに語られます。真実を見据える生き様の重要性と力強さが笑顔とともに伝わってきます。

理工学部教員
後藤彩子 推薦

[P11 参照](#)

54

『算数好きな子に育つ
たのしいお話365
さがしてみよう、
あそんでみよう、
つくってみよう
体験型読み聞かせブック』

- * 著者名
日本数学教育学会
研究部(著)
子供の科学(編集)
- * 出版社
誠文堂新光社(2016年)

フロンティアサイエンス学部
教員 西方敬人 推薦

知人の小学一年生へのプレゼントとして購入したのですが、「えっ?これってなんだっけ」と思う数字や図形にまつわる365の話題が、わかりやすい挿絵とともに各1ページにまとめられており、私も楽しく読みました。体験型ということで、ちょっとした実験のやり方なども書かれています。子供が対象の本ですが、常識不足の学生達に1話でもいいから読んでもらって、「そうなんだ!」と納得してもらいたいです。

17

『137億年の物語
宇宙が始まってから
今日までの全歴史』

* 著者名

クリストファー・ロイド(著)
野中香方子(訳)

* 出版社

文藝春秋(2012年)

フロンティアサイエンス学部
教員 藤井敏司 推薦

文系・理系の垣根を越えて、宇宙の誕生から現在の我々人類の繁栄までを綴る一大歴史叙事詩。我々が今此所にいる奇跡を是非感じてください。

理工学部教員
日下部岳広 推薦

P10 参照

55

『元素111の新知識
引いて重宝
読んでおもしろい』

* 著者名

桜井弘(編)

* 出版社

講談社(2013年)

フロンティアサイエンス学部
教員 藤井敏司 推薦

各人の個性を活かした教育がモットーの甲南大学のように、各元素はその性質を活かして、思わぬところで意外な活躍をしています。発見の歴史から生体に与える影響まで、あなたの最愛の元素を見つけてみてください。

56

『もうダメされない
いたための
「科学」講義』

* 著者名

菊池 誠(著)他

* 出版社

光文社(2011年)

フロンティアサイエンス学部
教員 藤井敏司 推薦

世の中にはびこるエセ科学。簡単にダメされないようにするためには文系・理系を問わず、科学リテラシーが重要です。

57

『外科医須磨久善』

- * 著者名
海堂尊(著)
- * 出版社
講談社(2009年)

フロンティアサイエンス学部
教員 藤井敏司 推薦

甲南学園ゆかりの須磨久善先生(「チームバチスタの栄光」で描かれたバチスタ手術の第一人者)の半生を描くノンフィクション。このような先輩を持っていることを誇りに思えるでしょう。

58

『孤高の人』

- * 著者名
新田次郎(著)
- * 出版社
新潮社(1969年)

フロンティアサイエンス学部
教員 藤井敏司 推薦

六甲山で登山技術を学び、冬の槍ヶ岳北鎌尾根にて遭難した神戸ゆかりの伝説の登山家 加藤文太郎。この本を読めば、山に登りたくなるはず!

59

『世界の
「宗教と戦争」講座
生き方の原理が異なると、
なぜ争いを生むのか』

- * 著者名
井沢元彦(著)
- * 出版社
徳間書店(2001年)

フロンティアサイエンス学部
教員 藤井敏司 推薦

世界で起こる戦争、紛争、テロの多くは宗教の対立である場合が多い。日本人は宗教音痴である、と良く言われるが、世界の動きを知るためには、宗教の知識が必須である。

60

『世界でいちばん
貧しくて美しい
オーケストラ』

- * 著者名
トリア・タンストール(著)
原賀真紀子(訳)
- * 出版社
東洋経済新報社
(2013年)

フロンティアサイエンス学部
教員 松井淳 推薦

人は未来に生きるのだと思います。本書は、犯罪に手を染めざるを得ないような貧困にあるベネズエラの子供達に対して、高度な音楽教育を施してオーケストラに参加させる「エル・システム」という活動を紹介しています。貧困に一時的な救いの手を差し伸べるのではなく、希望ある未来を与える素敵なおドキュメンタリーです。

61

『ローマ人の物語』

- * 著者名
塩野七生(著)
- * 出版社
新潮社(1992年)

フロンティアサイエンス学部
教員 三好大輔 推薦

「～は一日にして成らず」
「ローマ人の物語」は、ローマ帝国の勃興から終焉までを記した物語です。面白いことは当然として、この書籍は、“とても長い”です。ハードカバーで15冊です。第一巻のタイトル、「ローマは一日にして成らず」のように、皆さんの大学生生活も、就職も、将来の夢も、一日にしては成りません。「継続は力なり」です。まずは、ローマ人の物語を読破してみてください。はいかがでしょうか。

62

『NASAより宇宙に
近い町工場
僕らのロケットが飛んだ』

- * 著者名
植松努(著)
- * 出版社
ディスカヴァー・
トゥエンティワン
(2009年)

フロンティアサイエンス学部
教員 三好大輔 推薦

TEDの講演でも有名な、植松社長の書籍です。従業員が数十名の工場を引き継いだ著者が、「どうせ無理」と言われながらも、宇宙開発に取り組むことになった経緯と著者の生い立ちが記されています。「どうせ無理」という言葉を世界から無くそう、と著者は訴えます。周りから何を言われても、自分の目標や夢に向かって行くべきである、と仰っているように思います。「世界初は、世界一」とも仰っています。「思い立ったが吉日」です。できない理由ではなく、できる理由を探して新しいことに積極的に取り組みたいですね。

63

『ゲノムと聖書』

『科学者、「神」について考える』

- * 著者名
フランシス・コリンズ(著)
中村昇, 中村佐知(訳)
- * 出版社
NTT出版(2008年)

フロンティアサイエンス学部
教員 三好大輔 推薦

著者は、国際ヒトゲノム計画の総責任者として知られる著名な生物学者です。著者は当初、量子物理学者であったのであるが、生物化学の講義を受講し、数学や理論で生命を理解できる可能性を知り、医学部に再入学し生物学者へと転身したそうである。(熱力学に恐れをなしている、あるいは興味のない学部生を相手に講義を繰り返す自身の将来像にも嫌気がさしたらしいが。)本書では、そのような著者が宇宙の誕生や生命の誕生と進化の最新の知見を通して、科学と信仰のすり合わせを試みている。著者の生い立ちが記されている第1章だけでも読む価値があると思います。

64

『生命とは?物質か!』
『サイエンスを知れば』
『百考して危うからず』

- * 著者名
和田昭允(著)
- * 出版社
オーム社(2008年)

フロンティアサイエンス学部
教員 三好大輔 推薦

本書の著者は、化学から物理、そして生物へと自らの研究対象を拡張し、日本を代表する生物物理研究者となった方です。「高い視点と広い視野で全体と部分とを見ること」、「解析力と洞察力を持つこと」、「自分の頭で考えること」を若い読者に訴えていると思います。内容は理系ですが、著者の信念や哲学が皆さんの今後にとって有用であること間違いなしです。理系の学生の皆さんには当然ですが、文系学部の学生の皆さんにも是非とも読んでいただきたいと思います。

65

『生涯を賭けるテーマを』
『いかに選ぶか』
『東工大講義』

- * 著者名
最相葉月(著)
- * 出版社
ポプラ社(2015年)

フロンティアサイエンス学部
教員 三好大輔 推薦

ショートショート作家からノーベル賞化学賞受賞者まで様々な人物が、ゲストスピーカーやインタビュー形式で登場します。講義なので15人分です。生い立ちや仕事の内容などが語られます。子供のころから目標が明確にある方や、気が付くと今の仕事をしているという方までそれぞれですが、共通している点は、やるべきことに一生懸命に取り組んでいるということでしょうか。文系理系にかかわらず、広く皆さんに読んでいただきたいと思います。

66

『科学と科学者の
はなし
寺田寅彦エッセイ集』

- * 著者名
池内了(編)
- * 出版社
岩波書店(2000年)

フロンティアサイエンス学部
教員 村嶋貴之 推薦

寺田寅彦は著名な物理学者・随筆家である。彼の文章には師である夏目漱石の影響が濃く、その随筆は身の回りの様々な事象を科学の視点で捉え、分かりやすい言葉で記したもので、文系の学生にも楽しめるが、この本は少年向けの編纂でありとくに読みやすい。なお、彼の残した箴言に「天災は忘れた頃にやってくる」がある。

67

『図解 月の神秘
伝説から科学まで』

- * 著者名
野本陽代(著)
- * 出版社
PHP研究所(1999年)

フロンティアサイエンス学部
教員 村嶋貴之 推薦

遠い昔から人は月を見上げ、月に夢を託してきた。1969年7月、アポロ11号は数多の献身と犠牲の果てに、人類が描いてきた壮大な夢をついに叶える偉大な足跡を残した。その結果、かつて伝説であったものが、現在では科学の言葉で語られている。この本は月面着陸という人類共通の夢を叶えるプロセスを中心に、様々な視点から月と人類の関わりを教えてくれる良書である。読了後はきっと新たな感動と畏怖をもって月を見上げたくなるに違いない。

68

『アット・ザ・ヘルム
自分のラボを
もつ日のために』

- * 著者名
Kathy Barker(著)
浜口道成(監訳)
- * 出版社
メディカル・サイエンス・
インターナショナル
(2004年)

フロンティアサイエンス学部
教員 臼井健二 推薦

研究者(特に理系)を目指す方に、ぜひ読んでもらいたい本です。また研究者を目指さない方でも、大学生の皆さんが読めば、大学教員の考えていること、悩んでいることが、もしかしたら分かるかも!? 組織論、リーダー論としても読みごたえがあるのでと思います。

69

『デミアン』

- * 著者名
ヘルマン・ヘッセ(作)
実吉捷郎(訳)
- * 出版社
岩波書店(2009年)

フロンティアサイエンス学部
教員 白井健二 推薦

高校時代に読む機会がなかった方、読んだけど挫折した方、忘れた方など、ぜひ、大学時代に読んでも遅くはないので、読破してみてください。ヘルマン・ヘッセの代表作は、人によって色々違うかもしれませんが、実はこの作品という方も多いのではないのでしょうか。実吉氏の訳が個人的には気に入っています。他の訳者の方のものと読み比べてもよいかもしれません。

70

『頭がいい人の
仕事が速くなる
技術』

- * 著者名
三木 雄信(著)
- * 出版社
すばる舎(2016年)

フロンティアサイエンス学部
教員 甲元一也 推薦

あー、終わらない、なんで自分ばかり残業しているんだろう…。そう思うことってありませんか？ 仕事を早く片付けられる人とそうでない人は生まれ持って決まっているわけではありません。ちょっとしたコツや考え方を身につければ誰でも早く仕事が片付けられるのです。本書はそんな要領のよい人になりたい人にオススメです。

71

『日本人の英語』

- * 著者名
マーク・ピーターセン
(著)
- * 出版社
岩波書店(1988年)

フロンティアサイエンス学部
教員 甲元一也 推薦

本当は英語を学ぶ前に読んでおくべき本なのだと思います。中学校、高校、大学と、学校で習ってきた英語はテストに出る文法や単語、熟語一辺倒となっていて、コミュニケーションツールとしての英語を果たして学んできたのか。この本を読んでみると、いろいろと考え直させるところがありますので、これから英語を使っていこうと考えている人、英語の必要性を強く感じている人は是非ご一読ください。

72

『プリンシプルの
ない日本』

- * 著者名
白洲次郎(著)
- * 出版社
ワイアンドエフ
(2001年)

フロンティアサイエンス学部
教員 長濱宏治 推薦

昭和初期に活躍した白洲次郎はNO
と言える日本人で、マッカーサーを
一喝した話は有名です。彼は自身の
プリンシプル(原理原則)を大切に生
きていました。この本を読めば、プリ
ンシプルを貫く生き方が如何に格好
良いのかがよく分かります。みなさん
のプリンシプルと彼のプリンシプルを
比べ、生きざまについて改めて考え
てみてください。

73

『武士道』

- * 著者名
新渡戸稲造(著)
奈良本辰也(訳・解説)
- * 出版社
三笠書房(2013年)

フロンティアサイエンス学部
教員 長濱宏治 推薦

旧五千円紙幣の肖像で有名な新渡
戸稲造の著書で、世界に侍の生き様
を紹介しました。彼は「武士道の究極
の理想は平和であり、戦いの本能の
下に、より神聖なる本能が潜んでいる。
それはすなわち愛である。」と述べて
います。ニュースを見れば、痛ましい
事件や恥知らずな事件が毎日報道
されています。今こそ愛にあふれた
武士道が必要です。世界に通用する
武士たれ!!

74

『モリー先生との
火曜日』

- * 著者名
ミッチ・アルボム(著)
別宮貞徳(訳)
- * 出版社
日本放送出版協会
(2004年)

フロンティアサイエンス学部
教員 川内敬子 推薦

自分の「生きる意味」について考える
機会を与えてくれる本です。人生の
岐路に立つ学生たちが、この本を通
じて、今一度「自らの幸せ・生き方」
について考え直して欲しいと思います。
どんな困難に直面しても乗り越え、豊
かな人生を歩んでいくことができるよ
うにこの本を推薦いたします。

75

『ちいさなあなたへ』

* 著者名

アリスン・マギー(著)
ピーター・レイノルズ(イラスト)
なかがわ ちひろ(翻訳)

* 出版社

主婦の友社(2008年)

フロンティアサイエンス学部
教員 川内敬子 推薦

月日を重ねるといことは、親との別れの日が近づいていくことでもあります。親は子供を必死で守っていること、また子供は親に喜びを与える大切な存在であるということを再認識させてくれる本です。言葉はとてもシンプルですが、人生の岐路に立つ大学生に是非読んでもらいたい絵本です。

76

『脳のなかの幽霊』

* 著者名

V.S.ラマチャンドラン
サンドラ・ブレイクスリー(著)
山下篤子(訳)

* 出版社

角川書店(1999年)

フロンティアサイエンス学部
教員 鶴岡孝章 推薦

人間には視覚、触覚、聴覚など様々な感覚を担う器官があるが、その情報は全て脳で処理されて、出力されていく。その「脳」と「身体」のミスマッチについて、多くの事例を挙げながら解説しているので、例えば自分の身近にある錯覚についてもわかるかもしれません。是非一読してみてください。

77

『集中力』

* 著者名

谷川 浩司(著)

* 出版社

角川書店(2005年)

フロンティアサイエンス学部
教員 鶴岡孝章 推薦

著者は羽生善治のライバルと称される神戸出身の谷川浩司棋士で、集中力を身につける極意を自身の経験を通じて紹介しています。「プレッシャーは技術だけでは乗り越えられない」と述べており、勝負に勝つ能力として集中力のコントロールを伸ばすことの大事さ、そしてその養い方を紹介しています。これから重大な局面を迎える皆さんにお勧めの一冊です。

78

『あの演説はなぜ
人を動かしたのか』

- * 著者名
川上徹也(著)
- * 出版社
PHP研究所(2009年)

フロンティアサイエンス学部
教員 高嶋洋平 推薦

皆さんは人の心を動かすようないいプレゼンをしたいと思いませんか？プレゼン能力は就活でもその後の社会人生活でも必ず必要とされます。この本は単なるプレゼンのハウツー本ではなく、歴史を動かした政治家の名演説を取り上げ、分析を行っています。まずはこの本を読んで心動かされてみませんか？

36

『イノベーションの
ジレンマ
技術革新が巨大企業を
滅ぼすとき』

- * 著者名
クレイトン・クリステンセン(著)
伊豆原弓(訳)
- * 出版社
翔泳社(2001年)

フロンティアサイエンス学部
教員 高嶋洋平 推薦

イノベーションという言葉は近年日本でもよく叫ばれている言葉ですが、この言葉は産業構造を変えてしまうような大きな技術革新のことを指します。この本は、そのイノベーションを起し成功した企業がやがてイノベーションが起こせなくなり最終的には滅びてしまうという衝撃的事実(ジレンマ)について語っています。この本を読んで日本を生かす持続的なイノベーションについて考えてみませんか？

経営学部教員
渡邊和俊 推薦

[P17 参照](#)

79

『人間の絆』

- * 著者名
 サマセット・モーム(作)
 行方昭夫(訳)
- * 出版社
 岩波文庫(2001年)

国際言語文化センター
 教員 伊庭緑 推薦

昔、父が強く勧めたのでしぶしぶ読み始めたところ、ストーリー展開がおもしろくて一気に読んでしまった記憶があります。その父もずいぶん前に亡くなりましたが、自分も父の年になって、最近この本を手に取りました。百年ほど前に発行された小説ですが、現代を生きる私たちにも深く響いてきます。特に若い男子に読んでほしい。あえてストーリーは書きませんが、主人公フィリップを自分に重ね合わせて救われる人もいるかもしれません。原書の英語も平易なのでチャレンジしてもいいかも。

80

『元気は、
 ためられる』

- * 著者名
 トム・ラス(著)
 坂東智子(翻訳)
- * 出版社
 ヴォイス(2015年)

国際言語文化センター
 教員 津田信男 推薦

この本を読めばどのように生活をすれば、もっと有意義な人生を歩めるかということが分かります。例えば、ある研究では自分の幸福を重視する人ほど孤独感を覚えることが多く、逆に有意義な人生を送っている人は人に与えることで大きな喜びを得ているという結果を得ています。その他、健康な生活を送るためのアドバイスも沢山ありますので、きっと役に立つと思うことが多いはずです。

81

『人を伸ばす力
 ～内発と自律の
 すすめ』

- * 著者名
 エドワード・L・デシ,
 リチャード・フラスト
 (著)
- * 出版社
 新曜社(1999年)

国際言語文化センター
 教員 藤原三枝子 推薦

本書は、ロチェスター大学のエドワード・L・デシが、長年にわたり研究してきた「内発的動機づけ」についての研究成果を一般読者向けに書いたWhy we do what we do. The dynamics of personal autonomy. の日本語訳です。動機づけについての正しい問いは、「他者をどのように動機づけるか」ではなく、「どのようにすれば他者が自らを動機づける条件を生み出せるか」を問うことだ(p.12)、と述べています。肝要なのは、押し付けではなく、相手の自律性をどのように援助することができるかを考えることだ、ということでしょう。学校でも会社でも家庭でも、人が幸福で健康に生きるための根本的な考えを知ることができます。何度読んでも新しい発見がある書です。

82

『天才』

- * 著者名
石原慎太郎(著)
- * 出版社
幻冬舎(2016年)

スポーツ・健康科学教育研究センター
教員 桂豊 推薦

先日、テレビの特番で故田中角栄氏について石原慎太郎氏が語っている番組がありました。大変興味深い内容で、またその著書のことを知り、早速購入しました。日本列島に新幹線網、高速道路網を張り巡らし、各県に飛行場を建設する等日本国民全体のことを最優先に考え、日本列島改造を牽引していたのは、故田中角栄氏でした。田中総理大臣が日本国民の為にしたこと、その生き様をあらためて詳しく知ることができ、とても新鮮でした。是非、平成生まれの甲南大学生に一度読んでいただきたいと思います。

83

『中国古典
名言事典』

- * 著者名
諸橋轍次(著)
- * 出版社
講談社(2001年)

スポーツ・健康科学教育研究センター
教員 山崎俊輔 推薦

若い頃は「論語」、「孫子」等、深い意味は十分に理解できなかったが、ただ気持ちを込めて、心で感じながら読んでいたように思います。しかし齢を重ね、人生色々な経験をしてくると、同じ「ことば」を読んでも以前と違った感じ方や新しい気付きがあります。最近では、「菜根譚」、「老子」等に興味を引き付けられます。

84

『経済学の
センスを磨く』

- * 著者名
大竹文雄 (著)
- * 出版社
日本経済新聞出版社
(2015年)

共通教育センター 教員
伊豫田隆俊 推薦

経済学のセンスを実際に身につけていることの重要性和有用性を平易に解き明かしている。経済学の手法を用いて身近な事柄を分析しており、大変わかりやすく面白い

25

『戦後世界経済史
自由と平等の
視点から』

- * 著者名
猪木武徳 (著)
- * 出版社
中央公論新社
(2009年)

共通教育センター 教員
伊豫田隆俊 推薦

自由と平等という、現代の政治・経済の根源的価値に依拠しながら戦後の世界経済を通覧している。大変示唆に富む内容の骨太な、知的センスを高めてくれる1冊

経済学部教員
杉村芳美 推薦

[P12 参照](#)

85

『戦後経済史
私たちはどこで
間違えたのか』

- * 著者名
野口悠紀雄 (著)
- * 出版社
東洋経済新報社
(2015年)

共通教育センター 教員
伊豫田隆俊 推薦

現代のわが国が抱えている様々な問題についてその原点に立ち返り、歴史的な視点から考察を加えた名著。大変わかりやすく、読み応えのある1冊

86

『生命とは何か』
物理的にみた生細胞』

- * 著者名
シュレーディンガー(著)
岡小天・鎮目恭夫(訳)
- * 出版社
岩波文庫(2008年)

先端生命工学研究所
教員 杉本直己 推薦

量子力学の世界的権威が遺伝子とは何かについて考察した名著の訳本。遺伝子の本質が何かという答えに論理的に迫っていく筆致は、卓越した推理小説のそれにも似て、一気に読破できるかも。専門の学生でなくても、生命とは摩訶不思議なものではなく、物理や化学の原理に基づいた、物質の集団なのであると理解できる。さて、遺伝子の本質がDNAの二重らせん構造にあると発表されたのは1953年。この原著は1944年出版なので、著者はまだその答えを知らなかった。では彼の答えは、正しかったのか、誤っていたのか。一読を勧める。

87

『二重らせん』

- * 著者名
ジェームズ・ワトソン(著)
江上不二夫・中村桂子
(訳)
- * 出版社
講談社(2012年)

先端生命工学研究所
教員 杉本直己 推薦

遺伝子の本質がDNAの構造と機能にありと見定めて、DNAの美しい二重らせん構造の発見に奔走した世界のトップレベルの研究者たちの競争と協力の物語。ワトソン、クリック、ウイルキンス、ポーリングなど後にノーベル賞を受賞する科学者たちがキラ星のごとく登場し、1950年代の欧米の社会事情を背景に人間ドラマを展開する。最初にゴールしたのは誰か？なぜ彼らだったのか？才能と努力だけでは決まらない人生航路の明暗を、何が左右するのか？深く考えさせられる一冊である。

88

『ハーバードで
いちばん人気の国
・日本』

* 著者名
佐藤 智恵(著)

* 出版社
PHP新書(2016年)

法科大学院 教員
渡辺顕修 推薦

新幹線のメンテという最後の技術者の誇りを持って仕事に臨む早業・清掃員を生んだ「テッセイ」、日本型ビジネスの神髄を示すトヨタ「カイゼン」マインド等の紹介。そして岩崎弥太郎の利益本位・会社本位の資本主義と渋沢栄一の「合本主義」、すなわち学園創始者・平生鈞三郎も目指した公共資本主義の対比等々。ビジネスに挑む学生が次の深読みの本を探すインデックスにできる速読本だ。

89

『ルポ保育崩壊』

* 著者名
小林美希(著)

* 出版社
岩波書店(2015年)

法科大学院 教員
小舟賢 推薦

待機児童という入口の問題ばかりが注目を集めている昨今ですが、本書はその先の保育現場の問題を明らかにする作品です。大胆な規制緩和で保育所の数を確保し、他方で保育の予算を切り詰めた結果、現場の保育士の待遇が悪化し保育の質低下を招いているという状況は、私たちにとっても決して他人事ではありません。

90

『甲南大学
人間科学研究所
叢書』

- * 著者名
森茂起(編) 他
- * 出版社
新曜社(2003年～)

人間科学研究所 教員
川田都樹子 推薦

甲南大学人間科学研究所は、心理学や医学など臨床実践の学問と、人文諸科学との融合力によって現代社会における様々な問題、特に「現代人の心の危機」について研究しています。複数の教員がこの研究員を兼任しています。これまで15巻の研究叢書を出版しました。「人間」について、「こころ」について、一緒に考えてみませんか？

91

『坂の上の雲』

- * 著者名
司馬遼太郎(著)
- * 出版社
文藝春秋(2004年)

職員 狭間宏明 推薦

日本が近代国家の仲間入りをした明治時代を生きた四国松山出身の秋山好古・真之兄弟と正岡子規を通じて、同時代の日本人のメンタリティを描いた長編小説。

日清戦争から日露戦争までを概観するほか様々な読み方があると思うが、秋山好古の目標に真っ直ぐに向かうシンプルな生き様をぜひ若い人に知ってほしい。

92

『小倉昌男
経営学』

- * 著者名
小倉昌男(著)
- * 出版社
日経BP出版センター
(1999年)

職員 小花直樹 推薦

箱に液体が滲み、アヤシイ空気を放つ宅配物。ドライバーが開口一番、「開けていただいて宜しいですか？ 弁償致しますので」。

時代のニーズを懸命に掴み、業界の常識に挑み、規制に立ち向かい、業界大手に上り詰めた、その会社の社長がこの本の筆者です。熱い一途な思いとそれを実現するために全力で知恵を絞る姿勢の大切さ。何より周囲の反対や既成概念に立ち向かう姿は圧巻です。

93

『名言の智恵
人生の智恵
古今東西の
珠玉のことば』

- * 著者名
谷沢永一(著)
- * 出版社
PHP研究所(2015年)

職員 河口浩 推薦

読書が苦手な私が本棚の一番手の届きやすい場所に置いている本の1冊です。これからの長い人生、いろいろな場面に遭遇すると思います。人に相談できない時などにきっと何らかのヒントを与えてくれる本です。「座右の書」の1冊に加えていただければと思います。

昨年、「[新版]名言の智恵 人生の智恵」も刊行されています。

職員 谷向豊 推薦

94

『海と毒薬』

- * 著者名
遠藤周作(著)
- * 出版社
講談社(2011年)

戦時中、某大学病院での実話を元に創作された話です。明らかに変と思える事でも、その場の空気でも何となく決まってしまうことは良くあることです。人間は、実は恐ろしいことを平気でしてしまうものなのです。物事を前にして何も考えない、苦しめない。実はそれが最も恐ろしい事なのだと気付かされます。人間の成長に悩むことは欠かせません、大いに悩んでください。なお作者は甲南とちょっとだけ関係があります。

職員 谷向豊 推薦

95

『悲しみの歌』

- * 著者名
遠藤周作(著)
- * 出版社
新潮社(2003年)

「海と毒薬」の続編的なお話です。皆さん、どんな人になりたいですか。私は人に優しく、良い人でありたいと思っていますが、それは正しいことなのでしょう。またそもそも『正しい』って何なのでしょう。「平気で恐ろしい事をする」人間が、「正しい」と信じて行うことの怖さを感じて欲しいと思います。

職員 山田聡 推薦

96

『スラムダンク
勝利学』

- * 著者名
辻 秀一(著)
- * 出版社
集英社(2000年)

スポーツ強化支援室でこの本と出会った。スラムダンクのワンシーンを取り上げたスポーツやチーム作りの指導書だが、人生において学ぶべき考え方や、哲学が盛り込まれている。ただ、がんばるだけでは意味がない。勝つとは何なのか。勝ち癖を身に着けるために、体育会学生は無論、むしろ一般学生にぜひ読んでもらいたい。

97

『クリエイティブ・
コーチング：
選手の潜在能
力を引き出す』

- * 著者名
ジェリー・リンチ(著)
水谷豊, 笈田欣治,
野老稔(訳)
- * 出版社
大修館書店(2008年)

職員 濱頭辰治 推薦

コーチングの方法(選手へのアプローチの仕方)は千差万別である。どのようなサポートをすれば選手が最高のパフォーマンスを発現できるか、そのためにコーチは選手たちとどのような関係を築くべきか、この本は、それらのことに気づかせてくれるヒントが詰まった1冊である。指導者の方は勿論、近い将来、社会人となり、リーダーシップを発揮して活躍される学生の皆さんにとっても、大変参考になるとと思います。

98

『男の服装術
スーツの着こなしから
靴の手入れまで』

- * 著者名
落合 正勝(著)
- * 出版社
PHP研究所(2004年)

職員 高野重成 推薦

日本の大学生にとってはあまり馴染みのないスーツスタイル。しかし社会人となった後は毎日のように着ることになる人がほとんどです。毎日着るものなら、少しでもそのスタイルを知って毎日を快適に、粹に、格好良く過ごしたいもの。この本は特に、スーツ初心者入門書とも言えるものになっています。世界で通用する紳士たるため、世界で通用するスタイルを自分のものにしよう！

99

『白い杖のひとり旅
ニュージーランド
手探り紀行』

- * 著者名
小寺洋一(著)
- * 出版社
連合出版(2013年)

職員 南部晶子 推薦

著者は、立命館大学4年生の時、実験中に化学薬品を顔面に受け、半年後に両目を失明した。点字や歩行訓練等を行い、京都府立盲学校に入学。その後、三ヶ月間のニュージーランドへひとり旅にでる。その時の体験記です。数々のハプニング・孤独・・・でも、多くの人との出会い、多くの親切・・・前向きに挑戦する姿に勇気もらえる1冊です。彼は、甲南大学文学部人間科学科へ編入し、本学大学院に進む。全盲ではじめての臨床心理士の資格を修得し、現在、スクールカウンセラーとして活躍中です。

100

『カラフル』

* 著者名
森 絵都(著)

* 出版社
講談社(2011年)

職員 西又映希 推薦

「人生やり直したい」そう思ったこと誰しも一度はあるはずですが。「やめてしまいたい」「死んでしまいたい」「めんどくさい」そんな感情で、パツとしない内気な日々を送っている方、または自分を押し殺してしまいそうな日々が続いている方、幸せや、解決策、自分自身を見てくれている人は意外と近いところにたくさんあります。この本はタイトル通り、モノクロの日常に彩を加えてくれるような暖かい物語です。

101

『総合商社で学んだ
ワンランク上になる
課長のノート
自分を高める
「気づきメモ」』

* 著者名
古川 裕倫(著)

* 出版社
かんき出版(2010年)

生協店長 平田誠二 推薦

私のような中堅サラリーマンには、今読み返しても、「その通り」と感じるような、組織に属するサラリーマンが実行すべき事柄が、例え話を交えながら分かりやすく書いてあります。学生の皆様が就職して、新人サラリーマンになった際の、上司の考え方の参考にもなると思います。